

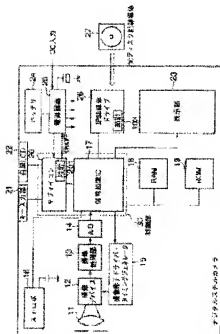
## ELECTRONIC DEVICE AND DATA WRITE METHOD

**Patent number:** JP2002238015 (A)  
**Publication date:** 2002-08-23  
**Inventor(s):** MIZOGUCHI TETSUYA; UMEDA AKIFUMI; SAKAI SUMIO; IKEHATA TATSUHIKO +  
**Applicant(s):** TOSHIBA CORP +  
**Classification:**  
- **international:** G03B15/76; G03B17/24; G03B19/02; G11B20/10; G11B27/00; H04N5/225; H04N5/05; H04N/85; H04N5/91; H04N101/00; G03B15/05; G03B17/24; G03B19/02; G11B20/10; G11B27/00; H04N5/225; H04N5/76; H04N5/84; H04N5/91; (IPC1-7: G03B15/05; G03B17/24; G03B19/02; G11B20/10; G11B27/00; H04N101/00; H04N5/225; H04N5/76; H04N5/85; H04N5/91  
- **europaean:**  
**Application number:** JP20010034345 20010209  
**Priority number(s):** JP20010034345 20010209

Abstract of JP 2002238015 (A)

**PROBLEM TO BE SOLVED:** To provide a digital still camera capable of being used suitably for an optical disk recording medium with a small size, a large capacity and moreover the single body of which mounted on various electronic devices can be used.

**SOLUTION:** Newest file management information stored in an optical disk recording medium 27 is read from the optical disk recording medium 27 at application of power to the digital still camera or when the optical disk recording medium 27 is mounted on the digital still camera, and is stored in a storage section of a recording medium disk which records medium 27. In the case of successively storing image data to the optical disk recording medium 27, the file management information on the storage section 104 is updated. Interruption of power from the digital still camera or when the optical disk recording medium 27 is removed, the digital still camera or when the digital still camera is removed, the file management information updated in the storage section 104 to the optical disk recording medium 27 as the newest file management information.



Data supplied from the *espacenet* database — Worldwide



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 追記型的光ディスク記録媒体が装着可能に構成され、前記光ディスク記録媒体を回転駆動することによって前記光ディスク記録媒体にデータを記憶する電子機器であって、メモリと、

前記光ディスク記録媒体に記憶されているデータを管理するためのファイル管理情報を前記光ディスク記録媒体から読み出して前記メモリに格納するファイル管理情報読み出し手段と、

前記光ディスク記録媒体にデータを追記するデータ追記手段と、

前記光ディスク記録媒体へのデータの書き込みに応じ、前記メモリ上の前記ファイル管理情報を更新する手段と、

前記電子機器の電源オフ時または前記電子機器からの前記光ディスク記録媒体の取り外し時に、前記メモリ上で更新されている前記ファイル管理情報を最新のファイル管理情報として前記光ディスク記録媒体に追記するファイル管理情報追記手段とを具備することを特徴とする電子機器。

【請求項2】 前記ファイル管理情報読み出し手段は、前記電子機器の電源オン時または前記電子機器への前記光ディスク記録媒体の装着時に、前記光ディスク記録媒体から最新のファイル管理情報を読み出して前記メモリに格納する手段を含むことを特徴とする請求項1記載の電子機器。

【請求項3】 前記メモリは不揮発性メモリであり、前記ファイル管理情報追記手段は、前記電子機器からの前記光ディスク記録媒体の取り外し時にのみ、前記更新されているファイル管理情報の追記を行う手段を含むことを特徴とする請求項1記載の電子機器。

【請求項4】 前記ファイル管理情報読み出し手段は、前記電子機器への前記光ディスク記録媒体の装着時にのみ、前記光ディスク記録媒体から最新のファイル管理情報を読み出して前記メモリに格納する手段を含むことを特徴とする請求項3記載の電子機器。

【請求項5】 前記光ディスク記録媒体の表面および裏面には、それぞれ面に記録されたデータに対応するファイル管理情報が個別に記録されていることを特徴とする請求項1記載の電子機器。

【請求項6】 前記電子機器は撮像部を有するデジタルカメラであり、

前記データ追記手段は、前記撮像部によって所定期間内に撮影された複数の画像データをもとめて前記光ディスク記録媒体に追記する手段を含むことを特徴とする請求項1または5記載の電子機器。

【請求項7】 前記電子機器はデジタルカメラであり、前記データ追記手段は、連写撮影によって得られた複数枚の画像信号それぞれに対応する複数の圧縮画像デー

タを生成し、それら複数の圧縮画像データをまとめて前記光ディスク記録媒体に追記する手段を含むことを特徴とする請求項1記載の電子機器。

【請求項8】 前記光ディスク記録媒体に対する書き込み／読み出し時に、前記電子機器を構成する複数のデバイスの中で、前記光ディスク記録媒体に対する書き込み／読み出し動作に関係するデバイス以外の他のデバイスを低消費電力状態に設定する電力管理手段をさらに具備することを特徴とする請求項1記載の電子機器。

【請求項9】 前記電子機器は撮像部を有するデジタルカメラであり、

前記電力管理手段は、前記光ディスク記録媒体に対する画像データの書き込み時に、前記撮像部を低消費電力状態に設定する手段を含むことを特徴とする請求項8記載の電子機器。

【請求項10】 前記電子機器はストロボを有するデジタルカメラであり、

前記電力管理手段は、前記光ディスク記録媒体に対する書き込み／読み出し中は、前記ストロボに対する充電動作を禁止する手段を含むことを特徴とする請求項8記載の電子機器。

【請求項11】 前記電子機器は、撮影によって得られた画像データを前記光ディスク記録媒体に記録するデジタルカメラであり、

前記光ディスク記録媒体に記録されている画像データを表示再生するための再生モードにおいて前記光ディスク記録媒体の回転駆動を開始し、前記メモリ上のファイル管理情報を参照して、前記光ディスク記録媒体から再生対象の画像データを読み出す手段と、

前記再生モードにおいて、再生対象の画像データを読み出してから次の画像データの再生要求が発行されるまでの経過時間を監視し、一定時間内に次の画像データの再生要求が発行されなかったときに前記光ディスク記録媒体の回転駆動を停止する手段とをさらに具備することを特徴とする請求項1記載の電子機器。

【請求項12】 装着された光ディスク記録媒体を回転駆動して、前記光ディスク記録媒体に対するデータ記録／再生処理を行うためのドライブユニットをさらに具備し、

前記経過時間の監視は、前記ドライブユニット内に設けられているタイマによって行われることを特徴とする請求項11記載の電子機器。

【請求項13】 前記光ディスク記録媒体の回転駆動を停止する手段は前記ドライブユニット内に設けられており、前記タイマによって一定時間内に次の画像データの再生要求が発行されなかったことが検出されたときに、前記ドライブが前記光ディスク記録媒体の回転駆動を停止することを特徴とする請求項12記載の電子機器。

【請求項14】 装着された光ディスク記録媒体を回転駆動して、前記光ディスク記録媒体に対するデータ記録

／再生処理を行うドライブユニットであって、前記光ディスク記録媒体に対するデータ記録／再生日時の管理のために使用可能な独自の時計モジュールを有するドライブユニットと、

前記電子機器内に設けられ、電池によりバックアップされた時計モジュールと、

前記電子機器の電源オン時に、前記電子機器内に設けられた時計モジュールから現在日時を取得し、その取得した日時情報を前記ドライブユニット内に設けられた時計モジュールに設定する手段をさらに具備することを特徴とする請求項1記載の電子機器。

【請求項15】 利用者からの入力情報に基づいて、前記電子機器内に設けられた時計モジュールの現在日時を設定する日時設定手段と、

前記電子機器内に設けられた時計モジュールに対する現在日時の設定に連動して、前記ドライブユニット内に設けられた時計モジュールに対して前記入力情報に基づき現在日時の設定を行う手段とをさらに具備することを特徴とする請求項14記載の電子機器。

【請求項16】 追記型の光ディスク記録媒体が装着可能に構成され、前記光ディスク記録媒体を回転駆動することによって前記光ディスク記録媒体に撮影によって得られた画像データファイルを記憶するデジタルカメラであって、メモリと、

前記光ディスク記録媒体に記憶されている画像データを管理するためのファイル管理情報を前記光ディスク記録媒体から読み出して前記メモリに格納するファイル管理情報読み出し手段と、

撮影によって得られた画像データを前記光ディスク記録媒体に追記するデータ追記手段と、

前記光ディスク記録媒体への画像データの書き込みに応じて、前記メモリ上の前記ファイル管理情報を更新する手段と、

前記デジタルカメラの電源オフ時または前記デジタルカメラからの光ディスク記録媒体の取り外し時に、前記メモリ上で更新されている前記ファイル管理情報を最新のファイル管理情報として前記光ディスク記録媒体に追記するファイル管理情報追記手段とを具備することを特徴とするデジタルカメラ。

【請求項17】 光ディスク記録媒体が装着可能に構成され、前記光ディスク記録媒体を回転駆動することによって前記光ディスク記録媒体に撮像部による撮影によって得られた画像データを記憶するデジタルカメラであって、

前記光ディスク記録媒体に対する画像データの書き込み時に、前記撮像部を低消費電力状態に設定する手段と、前記画像データファイルの書き込み完了時に前記光ディスク記録媒体の回転を停止すると共に、前記撮像部を通常動作状態に復帰させる手段とを具備することを特徴と

するデジタルカメラ。

【請求項18】 前記光ディスク記録媒体に対する画像データの書き込み時に、ストロボに対する充電動作を禁止する手段をさらに具備することを特徴とする請求項17記載のデジタルカメラ。

【請求項19】 追記型の光ディスク記録媒体が装着可能に構成され、前記光ディスク記録媒体を回転駆動することによって前記光ディスク記録媒体に撮影によって得られた画像データを記憶するデジタルカメラであって、連写撮影によって得られた複数枚数の画像信号それぞれに対応する複数の圧縮された画像データを生成する手段と、

生成された前記複数の圧縮画像データをまとめて前記光ディスク記録媒体に追記する手段とを具備することを特徴とするデジタルカメラ。

【請求項20】 光ディスク記録媒体が装着可能に構成され、前記光ディスク記録媒体を回転駆動することによって前記光ディスク記録媒体に撮影によって得られた画像データを記憶するデジタルカメラであって、

前記光ディスク記録媒体に記録されている画像データを表示再生するための再生モードにおいて前記光ディスク記録媒体の回転駆動を開始し、前記光ディスク記録媒体から再生対象の画像データを読み出す手段と、

前記再生モードにおいて、再生対象の画像データを読み出してから次の画像データの再生要求が発行されるまでの経過時間を監視し、一定時間内に次の画像データの再生要求が発行されなかったときに前記光ディスク記録媒体の回転駆動を停止する手段とを具備することを特徴とするデジタルカメラ。

【請求項21】 光ディスク記録媒体が装着可能に構成され、前記光ディスク記録媒体を回転駆動することによって前記光ディスク記録媒体に撮影によって得られた画像データを記憶するデジタルカメラにおけるデータ書き込み方法であって、

前記光ディスク記録媒体に記憶されているデータを管理するためのファイル管理情報を前記光ディスク記録媒体から読み出して、前記光ディスク記録媒体が装着されたデジタルカメラ内のメモリに格納するステップと、

撮影によって得られた画像データを前記光ディスク記録媒体に追記するデータ追記ステップと、

前記光ディスク記録媒体への画像データの書き込みに応じて、前記メモリ上の前記ファイル管理情報を更新するステップと、

前記デジタルカメラの電源オフ時または前記デジタルカメラからの光ディスク記録媒体の取り外し時に、前記メモリ上で更新されている前記ファイル管理情報を最新のファイル管理情報として前記光ディスク記録媒体に追記するステップとを具備することを特徴とするデータ書き込み方法。

【請求項22】 追記型の光ディスク記録媒体が装着可

能に構成され、前記光ディスク記録媒体を回転駆動することによって前記光ディスク記録媒体にデータを記憶する電子機器であって、前記光ディスク記録媒体は表面および裏面の両面記録型の媒体であり、装着された前記光ディスク記録媒体を回転駆動し、ヘッド部に対向する表面および裏面のいずれか一方の記録面に対するデータ記録/再生処理を行うドライブ手段と、前記ドライブユニットを通じて前記光ディスク記録媒体に対するデータ書き込み/読み出しを制御する制御手段とを具備し、前記光ディスク記録媒体の表面および裏面にはそれぞれの記録面に記録されたデータに対応するファイル管理情報が個別に記録されており、前記制御手段は、前記ドライブ手段によりデータ記録/再生処理が可能な記録面に対するデータ書き込み/読み出しの制御を、その記録面に記録したファイル管理情報を用いて実行することと特徴とする電子機器。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】この発明は光ディスク記録媒体を回転駆動することによってその光ディスク記録媒体にデータを書き込む電子機器および同機器におけるデータ書き込み方法に関する。

【0002】

【従来の技術】近年、デジタルカメラの普及および記録画像のデータサイズの増大に伴い、安価で且つ大容量の新たな記録メディアの開発が要求されている。

【0003】従来、デジタルカメラの記憶メディアとしては、フラッシュメモリから構成されたメモリカードが主流であった。メモリカードの低コスト化および大容量化が進められているものの、そのビット単価はいまだに高い。

【0004】そこで、ハードディスクドライブなどの磁気記憶装置をデジタルカメラの記憶メディアとして使用することも試みられている。ハードディスクドライブは大容量化には好適であるが、メディアとドライブとが一体であるためその製品コストは高く、また写真用のフィルムのような感覚で出先で気軽に調達するといったことはできない。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】このような事情から、デジタルカメラにおいては、小型且つ大容量で、しかも記録メディア単体で各種電子機器に装着して使用可能な新たなリムーバブル記録媒体の出現が待ち望まれている。

【0006】この場合、写真用フィルムのように例えば駅の売店やコンビニエンスストアなど何処でも手軽に購入できるようにするためには、記録媒体自体のコストを大幅に低減することが重要となる。記録媒体の低コスト

化のための一対策としては、C-D-Rなどに代表されるような追記型的光ディスク記録媒体を用いることが考えられる。追記型的光ディスク記録媒体は物理的なデータの書き換えは出来ないが、その媒体自体のコストを低く抑えることができ、また光記録により容易に媒体の大容量化を実現することができる。

【0007】しかし、このような追記型的光ディスク記録媒体をデジタルカメラの記録媒体として使用する場合には、上述のように物理的なデータの書き換えはできないので、画像データの書き込みの度に古いファイル管理情報が残ったまま新しいファイル管理情報が光ディスク記録媒体に追記されていくことになる。これは、光ディスク記録媒体の記憶容量が古いファイル管理情報によって無駄に使用されることを意味する。

【0008】また、光ディスク記録媒体はそれを回転駆動することによってデータのリード/ライトを行うことが必要となるので、メモリカードなどに比べると、データリード/ライト時の消費電力は非常に大きくなる。この場合、例えばバッテリーからの電力の低下などにより光ディスク記録媒体の回転速度と書き込みデータの転送速度との同期がくずれると、データ書き込みにエラーが生じ、そのデータを正常に読み出すことができなくなるという不具合が生じる。

【0009】この発明は上記の点に鑑みてなされたもので、小型且つ大容量で、しかも記録メディア単体で各種電子機器に装着して使用可能な追記型的光ディスク記録媒体の使用に好適な電子機器および同機器におけるデータ書き込み方法を提供することを目的とするものである。

【0010】

【課題を解決するための手段】この発明は、追記型的光ディスク記録媒体が装着可能に構成され、前記光ディスク記録媒体を回転駆動することによって前記光ディスク記録媒体にデータを記憶する電子機器であって、メモリと、前記光ディスク記録媒体に記憶されているデータを管理するためのファイル管理情報を前記光ディスク記録媒体から読み出して前記メモリに格納するファイル管理情報読み出し手段と、前記光ディスク記録媒体にデータを追記するデータ追記手段と、前記光ディスク記録媒体へのデータの書き込みに応じて、前記メモリ上の前記ファイル管理情報を更新する手段と、前記電子機器の電源オフ時または前記電子機器からの前記光ディスク記録媒体の取り外し時に、前記メモリ上で更新されている前記ファイル管理情報を最新のファイル管理情報として前記光ディスク記録媒体に追記するファイル管理情報追記手段とを具備することと特徴とする。

【0011】この構成によれば、ファイル管理情報の追記回数を減らすことができるので、画像データの書き込みの度に古いファイル管理情報が残ったまま新しいファイル管理情報が光ディスク記録媒体に追記していく方式

に比し、追記型の光ディスク記録媒体の記憶容量を効率よく使用できる。

【0012】また、前記メモリとして揮発性メモリを用いた場合には、光ディスク記録媒体の取り外し時のみ、前記更新されているファイル管理情報の追記を行えばよいので、さらにファイル管理情報の追記回数を減らすことができる。また、メモリ上のファイル管理情報の内容はデータの書き込みに応じて更新されているので、そのファイル管理情報を参照することにより、光ディスク記録媒体に新たに書き込んだデータについてもそれを光ディスク記録媒体から正しく読み出すことが出来る。

【0013】また、この発明は、光ディスク記録媒体が装着可能に構成され、前記光ディスク記録媒体を回転駆動することによって前記光ディスク記録媒体に撮像部による撮影によって得られた画像データファイルを書き込むデジタルカメラであって、前記光ディスク記録媒体に対する画像データの書き込み時に、前記撮像部を低消費電力状態に設定する手段と、前記画像データの書き込み完了時に前記光ディスク記録媒体の回転を停止すると共に、前記撮像部を通常動作状態に復帰させる手段とを具備することを特徴とする。この構成によれば、最大消費電力を低く抑えることができるので、光ディスク記録媒体に対する画像データの書き込み動作の信頼性を高めることが可能となる。

【0014】また、この発明は、追記型の光ディスク記録媒体が装着可能に構成され、前記光ディスク記録媒体を回転駆動することによって前記光ディスク記録媒体に撮影によって得られた画像データを記憶するデジタルカメラであって、連写撮影によって得られた複数枚数の画像信号それぞれに対応する複数の圧縮された画像データを生成する手段と、生成された前記複数の圧縮画像データをまとめて前記光ディスク記録媒体に追記する手段とを具備することを特徴とする。この構成によれば、まとまったデータサイズを一度に書き込めるため、圧縮しながら画像データを個々に書き込む場合に比しモータの総回転時間を少なくすることが出来、消費電力を低減できる。

【0015】また、この発明は、光ディスク記録媒体が装着可能に構成され、前記光ディスク記録媒体を回転駆動することによって前記光ディスク記録媒体に撮影によって得られた画像データを記憶するデジタルカメラであって、前記光ディスク記録媒体に記録されている画像データを表示再生するための再生モードにおいて前記光ディスク記録媒体の回転駆動を開始し、前記光ディスク記録媒体から再生対象の画像データを読み出す手段と、前記再生モードにおいて、再生対象の画像データを読み出してから次の画像データの再生要求が発行されるまでの経過時間を監視し、一定時間内に次の画像データの再生要求が発行されなかったときに前記光ディスク記録媒体の回転駆動を停止する手段とを具備することを特徴とす

る。この構成によれば、無駄なモータ回転を無くすることが出来る。

【0016】

【発明の実施の形態】図1はこの発明の一実施形態に係るデジタルスチルカメラを示すブロック図である。このデジタルスチルカメラは、撮影によって得られた画像信号を圧縮符号化した後に光ディスク記録媒体27に静止画データファイルとして記録する。このデジタルスチルカメラは、静止画撮影・記録の他、動画撮影・記録にも対応することができる。

【0017】このデジタルスチルカメラは、図示のように、レンズ11、CCD/CMOSセンサなどの固体撮像デバイス12、撮像信号処理部13、A/D変換器14、撮像素子ドライバ・タイミングジェネレータ15（以下、撮像素子ドライバ15）、ストロボ16、信号処理IC17、RAM18、ROM19、サブマイコン20、キー入力部21、白黒LCD22、表示部23、バッテリー24、電源回路25、および記録媒体ドライブユニット26などを備えている。

【0018】レンズ11は撮影光学系を構成するものである。このレンズ11によって入力された光学像が撮像デバイス12によって電気信号に変換され、撮像素子ドライバ15の制御の下に撮像信号として読み出される。撮像信号は撮像処理部13を経てA/D変換器14に送られる。A/D変換器14でデジタル信号に変換された撮像信号は信号処理IC17に入力される。信号処理IC17はDSPから構成されている。この信号処理IC17は、カメラ全体制御、画像信号生成、および画像データ圧縮伸張の機能を持つ。

【0019】RAM18は信号処理IC17の作業メモリである。信号処理IC17に入力された撮像信号は一旦RAM18に記憶され、そこで画像信号生成のための信号処理、圧縮処理、および画像データのファイル生成処理が行われる。ROM19には、信号処理IC17の動作を制御するプログラムが記憶されている。

【0020】サブマイコン20は、信号処理IC17と共同してこのデジタルカメラの制御を行う。サブマイコン20の主な機能は、キー入力部21からのキー入力の受付（電源スイッチ、イジェクトスイッチ、シャッターボタン、その他）、白黒LCD22への各種状態表示、および電源回路25の制御である。また、サブマイコン20には、日時を管理するための時計モジュール201が設けられている。このサブマイコン20と信号処理IC17とが共同してカメラ制御部30として機能することになる。なお、例えば電源スイッチ以外のキー入力部21のキーからの信号などは信号処理IC17に直接入力するようにしても良い。

【0021】表示部23はカラーLCDである。このカラーLCDは、信号処理IC17で得られた画像信号の表示再生および記録画像の表示再生に用いられる。電源

回路 25 はバッテリー 24 または外部からの DC 電源入力からデジタルカメラ内の各部位への動作電源を生成する。この電源回路 25 には専用のサブバッテリーが接続されており、デジタルカメラのバッテリー交換時にもサブマイコン 20 に電源を供給することができる。これにより時計モジュール 201 は常時動作するので、静止画データのファイルのヘッダ部などに正しい日時情報を付加して記録することが出来る。

【0022】記録媒体ドライブ 26 は、それに装着された光ディスク記録媒体 27 を回転駆動して光ディスク記録媒体 27 に対するデータ記録/再生処理を行うドライブユニットである。光ディスク記録媒体 27 は追記型の光ディスクであり、デジタルスチルカメラに設けられたディスク装着スロットに取り外し自在に装着される。光ディスク記録媒体 27 は表面および裏面の両面記録型の媒体である。そのディスクサイズは 50.0 円玉程度であり、約 500 M/バイト程度の記憶容量を有する。

【0023】光ディスク記録媒体 27 は、図 2 のように、円盤状の媒体（ディスクメディア）272 と、それを収容するジャケット 271 とから構成されている。媒体 272 はジャケット 271 内に回転可能に設けられている。光ディスク記録媒体 27 は、デジタルスチルカメラに設けられたディスク装着スロットを通して記録媒体ドライブ 26 内に挿入される。光ディスク記録媒体 27 自体は両面記録であるが、記録媒体ドライブ 26 のヘッド部は 1 つであり、そのヘッド部に対向する表面および裏面のいずれか一方の面に対するデータ記録/再生処理が行われる。

【0024】記録媒体ドライブ 26 は、図 3 に示すように、ドライブ制御部 101、回転駆動機構部 102、時計モジュール 103、記憶部 104、およびピックアップ部（ヘッド部）105 を備えている。ドライブ制御部 101 は、記録媒体ドライブ 26 のホスト装置として機能する信号処理 IC17 からコマンドに従って光ディスク記録媒体 27 に対するデータ記録/再生処理を実行する。データ記録/再生処理は、モータを含む回転駆動機構部 102 によって光ディスク記録媒体 27 のディスクメディア 272 を回転駆動しながら行われる。

【0025】（ファイル管理情報の追記制御）次に、光ディスク記録媒体 27 に記憶されるファイル管理情報の管理について説明する。

【0026】光ディスク記録媒体 27 には静止画/動画などの画像データがファイルとして記録されるのみならず、それら記録されている画像データのファイルを管理するためのファイル管理情報（各ファイルの種類、大きさ、作成日時、記録位置、有効/無効、ファイル間の関連）も記録される。光ディスク記録媒体 27 は CDR と同様追記可能なライトワンスみの記録媒体であるので、通常は、画像データの書き込みの度に、古いファイル管理情報が光ディスク記録媒体 27 に残ったまま、新

しいファイル管理情報が追加されていくことになる。なるべくファイル管理情報を一度にまとめて書き込んだ方が光ディスク記録媒体 27 の容量を有効利用することが出来る。以下、そのための仕組みを図 4 を参照して説明する。

【0027】図 4（A）に示すように、デジタルスチルカメラの電源オン時またはデジタルスチルカメラへの光ディスク記録媒体 27 の装着時には、光ディスク記録媒体 27 に記憶されている最新のファイル管理情報が光ディスク記録媒体 27 から読み出され、それが記録媒体ドライブ 26 内の記憶部 104 に格納される。記憶部 104 は揮発性の半導体メモリから構成されている。光ディスク記録媒体 27 においては、ファイル管理情報格納エリアと画像ファイル格納エリアとが区分されており、新しいファイル管理情報はファイル管理情報格納エリアに追記されていき、また画像データファイルは画像ファイル格納エリアに追記されていく。画像データファイルには、画像データそれ自体と、日時情報その他の各種情報とが含まれている。ファイル管理情報は、各画像データとそのファイルに関する管理を行うためのものである。図 4（A）では、画像ファイル格納エリアには画像データ #1、#2、#3、#4 がそれぞれファイルとして格納され、またファイル管理情報格納エリアにはファイル管理情報が 4 回書き込まれた場合の様子が示されている（交差斜線で示すファイル管理情報が最新のものであり、斜線で示すファイル管理情報それぞれは追記によって無効化されたものである）。

【0028】光ディスク記録媒体 27 から最新のファイル管理情報を読み出した後は、デジタルスチルカメラの制御部 30 は、記憶部 104 上のファイル管理情報を参照して、光ディスク記録媒体 27 への画像データファイルの追記や、光ディスク記録媒体 27 からの画像データファイルの読み込みを制御する。そして、光ディスク記録媒体 27 へ画像データを追記した場合には、制御部 30 は、それに応じて記憶部 104 上のファイル管理情報の更新を行う。

【0029】次に、デジタルスチルカメラの電源オフ時または光ディスク記録媒体 27 の取り外しのためのイジェクトキーが押された場合には、図 4（B）に示すように、制御部 30 の制御の下、記憶部 104 上で更新されているファイル管理情報を最新のファイル管理情報として光ディスク記録媒体 27 に追記する処理が行われる。もちろん、記憶部 104 上のファイル管理情報が更新されていない場合には、光ディスク記録媒体 27 への追記処理は不要である。記憶部 104 上のファイル管理情報が更新されているか否かは、例えばそれを書き出すフラグを記憶部 104 上の特定位置に記憶しておくことによって判別可能である。

【0030】図 5 は、光ディスク記録媒体 27 に記憶されるファイル管理情報の一例が示されている。図 5 に

いては、ファイル管理情報は、それ自体の更新日時情報、光ディスク記録媒体27の総容量、光ディスク記録媒体27の記録済み容量、画像データの記録済み枚数、記録されている各画像データファイル#1、#2、...それぞれに関する容量、記憶位置、記録日時などの情報から構成されている。ファイル管理情報自体の更新日時情報および各画像データファイルの記録日時情報は、記録媒体ドライブ26内の時計モジュール103またはサブマイコン20の時計モジュール201によって与えられる。

【0031】次に、図6、図7のフローチャートを参照して、デジタルスチルカメラの制御部30の動作手順について説明する。

【0032】ユーザによって電源スイッチがオンされると、サブマイコン20から電源回路25に電源ON指令が発行され、各部に電源が供給される。この場合、図6のフローチャートに示すように、信号処理1C17は、まず、記録媒体ドライブ26と通信すること等により光ディスク記録媒体27が装着されているか否かを判別する(ステップS101)。光ディスク記録媒体27が未装着の場合は、信号処理1C17は、サブマイコン20を通じて白黒LCD22あるいは表示部23にメディアが挿入されていない旨をメッセージ表示する(ステップS103)。

【0033】光ディスク記録媒体27が予め装着されていた場合、あるいは記録媒体ドライブ26によって光ディスク記録媒体27の装着が検出された時点で、信号処理1C17は、記録媒体ドライブ26を通じて光ディスク記録媒体27から最新のファイル管理情報を検索し、そしてその最新のファイル管理情報を光ディスク記録媒体27から読み出して記憶部104に格納する(ステップS104)。この後、信号処理1C17は撮影操作を許可し、ユーザによってシャッターボタンが押されると、撮影処理動作、画像データファイルの記録動作を行う(ステップS105)。画像データファイルは記録媒体ドライブ26を通じて光ディスク記録媒体27に追記される。また、このとき、信号処理1C17は、記憶部104上のファイル管理情報を更新する(ステップS106)。以下、シャッターボタンが押される度に同様の動作が実行される(ステップS107、S108)。

【0034】ユーザによって電源スイッチがオフされた場合、あるいは光ディスク記録媒体27を取り出すためのイジェクトボタンが押された場合には、図6のフローチャートに示すように、信号処理1C17は、まず、記憶部104上のファイル管理情報が更新されているか否かを判別する(ステップS111)。更新されている場合には、信号処理1C17は、記憶部104上のファイル管理情報を記録媒体ドライブ26を通じて光ディスク記録媒体27に最新のファイル管理情報として追記する(ステップS112)。この後、信号処理1C17は、

電源オフ処理またはイジェクト処理を開始する(ステップS113)。

【0035】以上の制御により、ファイル管理情報の追記回数を減らすことができるので、画像データファイルの書き込みの度に古いファイル管理情報が残ったまま新しいファイル管理情報が光ディスク記録媒体27に追記していく方式に比し、追記型の光ディスク記録媒体27の記憶容量を効率よく使用することが可能となる。

【0036】(ファイル管理情報の追記制御#2) 次に、図8を参照して、光ディスク記録媒体27に記憶されるファイル管理情報の管理についての第2の例について説明する。ここでは、記憶部104として、不揮発性半導体メモリを使用した場合を想定する。不揮発性半導体メモリにファイル管理情報を記憶した場合には、カメラ電源がオフの状態であっても最新のファイル管理情報が保持される。つまり、必ずしもカメラ電源をオフする時に最新のファイル管理情報を光ディスク記録媒体27に書き込む必要はなく、光ディスク記録媒体27を取り外すときにのみ最新のファイル管理情報を光ディスク記録媒体27に書き込めばよい。

【0037】すなわち、図8(A)に示すように、デジタルスチルカメラへの光ディスク記録媒体27の装着時には、まず、光ディスク記録媒体27に記憶されている最新のファイル管理情報が光ディスク記録媒体27から読み出され、それが記録媒体ドライブ26内の記憶部104に格納される。記憶部104は前述したように不揮発性の半導体メモリから構成されている。

【0038】光ディスク記録媒体27から最新のファイル管理情報を読み出した後は、デジタルスチルカメラの制御部30は、記憶部104上のファイル管理情報を参照して、光ディスク記録媒体27への画像データファイルの追記や、光ディスク記録媒体27からの画像データファイルの読み込みを制御する。そして、光ディスク記録媒体27へ画像データファイルを追記した場合には、制御部30は、それに応じて記憶部104上のファイル管理情報の更新を行う。

【0039】次に、光ディスク記録媒体27の取り外すためのイジェクトキーが押された場合には、図8(B)に示すように、制御部30の制御の下、記憶部104上で更新されているファイル管理情報を最新のファイル管理情報として光ディスク記録媒体27に追記する処理が行われる。もちろん、記憶部104上のファイル管理情報が更新されていない場合には、光ディスク記録媒体27への追記処理は不要である。

【0040】このように、光ディスク記録媒体27のファイル管理情報を不揮発性メモリに読み込んでおくことにより、光ディスク記録媒体27へのファイル管理情報の追記回数をより減らすことが可能となる。

【0041】なお、前述したように、光ディスク記録媒体27は小型でありながら十分な容量を確保するために



両面記録のメディアから構成されており、また記録媒体ドライブ26にはコスト低減のために一個のヘッド部しか設けられていないので、ファイル管理情報は光ディスク記録媒体27の表面および裏面のそれぞれに別個に記憶しておくことが好ましい。特に、表面のファイル管理情報は表面に記録されている画像データファイルの管理に使用し、また裏面のファイル管理情報は裏面に記録されている画像データファイルの管理に使用することで、光ディスク記録媒体27が表面および裏面のどちら側の向きで挿入された場合でも、上述の制御を正しく行うことが可能となる。

【0042】また、記憶部104はカメラ側の構成を簡単にすると言う点から記録媒体ドライブ26内のメモリを使用するのが最も有効であるが、カメラ側に用意しても良いことはもちろんである。

【0043】また、画像データのみならず、画像データと他のデータとが混在して記録されている光ディスク記録媒体27についても、上記ファイル管理情報の追記制御を同様にして適用することが出来る。

【0044】《電力制御》次に、この実施形態のデジタルスチルカメラに適用される電力制御について説明する。

【0045】光ディスク記録媒体27に対するデータ書き込み／読み出しに際しては機械的な駆動機構の動作を必要とするため、データ書き込み／読み出し動作時には大きな電力が必要となる。そこで、次のような電力制御の仕組みが有効となる。

【0046】(1) 光ディスク記録媒体27へのデータ書き込み時、あるいはデータ読み出し時に、デジタルスチルカメラの撮像部（固体撮像素子12、撮像信号処理部13、A/D変換器14、撮像素子ドライバ15など）を動作停止して低電力状態に設定する（撮像部への電源供給を停止する場合も含む）。

【0047】(2) 光ディスク記録媒体27へのデータ書き込み時、あるいはデータ読み出し時には、ストロボ16の発光用コンデンサへのチャージを行なう。

【0048】図9は(1)の制御処理の手順を示している。すなわち、信号処理IC17は、光ディスク記録媒体27へのデータ書き込みあるいはデータ読み出しに際して、その前に、まず、撮像部を低電力状態に設定する（ステップS121）。その後、信号処理IC17は、記録媒体ドライブ26のモータ回転を開始させ（ステップS122）、そして光ディスク記録媒体27の回転速度が安定した後に、記録媒体ドライブ26を通じて光ディスク記録媒体27へのデータ書き込みあるいはデータ読み出しを実行する（ステップS123）。データ書き込み／データ読み出しが完了すると、信号処理IC17は、記録媒体ドライブ26のモータ回転を停止させた後（ステップS124）、撮像部を通常動作状態に復帰させて撮影動作を許可する（ステップS125）。

【0049】このように撮像部を低電力状態に設定することで、データ書き込み／読み出し動作時に発生する最大消費電力の値を低減できる。よって、データ書き込み／読み出し動作に必要な電力を安定的に供給できるようになり、データ書き込みエラーなどの誤動作の防止を図ることが可能となる。また、最大電流も減るため、バッテリー24の寿命も長くなる。

【0050】図10は(2)の制御処理の手順を示している。すなわち、信号処理IC17は、ストロボ16のステータスを監視することにより充電が必要な状態であるか否か（発光可能か否か）を管理しており、充電が必要な場合にはストロボ16にチャージ命令を発行して、充電を開始させる。本例では、信号処理IC17は、ストロボ16の充電が必要な状態であることを検出した場合、つまりストロボ16のステータスが発光可能状態から発光不能状態に変化した場合（チャージ要求に相当）には、まず、光ディスク記録媒体27へのデータ書き込みあるいはデータ読み出しが実行中であるか否かを判断する（ステップS131）。光ディスク記録媒体27が回転していない場合、つまりデータ書き込み／読み出し中でなければ、信号処理IC17は、ストロボ16にチャージ命令を発行して、充電を開始させる（ステップS132）。一方、光ディスク記録媒体27が回転している場合、つまりデータ書き込み／読み出し中であれば、信号処理IC17は、データ書き込み／読み出しが完了するのを待ってから（ステップS133、S131）、ストロボ16にチャージ命令を発行する（ステップS132）。

【0051】なお、記録媒体ドライブ26のモータ回転の停止は、記録媒体ドライブ26を低消費電力のスタンバイモードに設定することと同様である。

【0052】次に、図11のフローチャートを参照して、(1)、(2)の電力管理制御を含む撮像モード時の一連の動作について説明する。

【0053】ユーザによって電源スイッチがオンされると、サブマイコン20から電源回路25に電源ON指令が発行され、各部に電源が供給される。信号処理IC17は、まず、記録媒体ドライブ26と通信すること等により光ディスク記録媒体27が装着されているか否かを判断する（ステップS141）。光ディスク記録媒体27が未装着の場合は、信号処理IC17は、サブマイコン20を通じて白黒IC22または表示部23にメディアが挿入されていない旨をメッセージ表示する（ステップS142）。

【0054】光ディスク記録媒体27が予め装着されていた場合、あるいは記録媒体ドライブ26によって光ディスク記録媒体27の装着が検出された時点で、信号処理IC17は、記録媒体ドライブ26のモータの回転を開始させ（ステップS144）、そして記録媒体ドライブ26を通じて光ディスク記録媒体27から最新のファ

イル管理情報を検索し、その最新のファイル管理情報を光ディスク記録媒体 27 から読み出して記憶部 104 に格納する（ステップ S145）。その後、信号処理 IC17 は記録媒体ドライブ 26 のモータ回転を停止させた後（ステップ S146）、撮像部を動作状態にして撮影可能状態に設定する（ステップ S147）。シャッターボタンが押されると、信号処理 IC17 は、撮影処理動作を開始し、撮像デバイス 13 から信号を読み出して、その信号処理を開始する（ステップ S148、S149）。この時点で、撮像部を一旦低電力状態に設定する（ステップ S150）。

【0055】画像データファイルが生成されると、信号処理 IC17 は、記録媒体ドライブ 26 のモータを回転させた後（ステップ S151）、画像データファイルを記録媒体ドライブ 26 を通じて光ディスク記録媒体 27 に追記する（ステップ S152）。このとき、信号処理 IC17 は、記憶部 104 上のファイル管理情報を更新する。画像データファイルの書き込みが完了すると、信号処理 IC17 は、記録媒体ドライブ 26 のモータ回転を停止させた後（ステップ S153）、撮像部を通常動作状態に復帰させて撮影動作を許可する（ステップ S154）。

【0056】撮影処理動作にてストロボ 16 を発光した場合には、画像データファイルの書き込み途中にチャージ要求が発生する場合があるが、画像データファイルの書き込み処理が優先して実行され、ストロボ 16 の充電は書き込み処理の終了を待って行われることになる。

【0057】（日時設定）このデジタルスチルカメラにおいては、サブマイコン 20 についてカメラ電源オフでも電源が供給されるが、記録媒体ドライブ 26 については省電力のために完全に電源オフされる。このため、記録媒体ドライブ 26 内の時計モジュール 103 についてはその時刻が現在時刻とずれてしまうことになる。記録媒体ドライブ 26 内の時計モジュール 103 は、光ディスク記録媒体 27 へ記録されたデータファイルの記録時間の管理等のために使用するものであり、例えば図 12 に示すように、書き込みデータファイルと日時情報とが対応付けされた状態で光ディスク記録媒体 27 に記録される。このため、時計モジュール 103 で計時される日時を正しい値に維持する仕組みが必要となる。

【0058】図 13 は、デジタルスチルカメラの電源オン時に行われる日時設定動作を示している。

【0059】すなわち、デジタルスチルカメラが電源オンされると、信号処理 IC17 は、その一連の立ち上げシーケンスの途中で、サブマイコン 20 の時計モジュール 201 から現在の日時情報を取得し（ステップ S161）、その取得した日時情報を記録媒体ドライブ 26 内の時計モジュール 103 にセットする（ステップ S162）。これにより、記録媒体ドライブ 26 内の時計モジュール 103 の日時情報を正しく保つことが可能とな

る。

【0060】図 14 は、ユーザによるキー入力部 21 の操作でデジタルスチルカメラの日時設定機能が呼び出された場合の処理手順を示している。この場合、白黒 LCD22 または表示部 23 には日時設定画面が表示され、その画面上にユーザによるキー入力部 21 の操作で入力された日時情報が表示される。入力された日時情報に関する確定操作がユーザによってなされると、信号処理 IC17 は、入力された日時情報をサブマイコン 20 の時計モジュール 201 にセットすると共に（ステップ S171）、同じ日時情報を記録媒体ドライブ 26 内の時計モジュール 103 にもセットする（ステップ S172）。これにより、時計モジュール 201 と時計モジュール 103 の日時情報を常に同じ状態に保つことが出来る。

【0061】（複数の画像データファイルの連続記録）光ディスク記録媒体 27 への画像データファイルの書き込みには比較的多くの時間を要する。また、データ書き込みの際にはモータを回転させてから回転速度が一定速度に安定するまで待つ必要があるため、撮影の度に画像データファイルを作成してそれを光ディスク記録媒体 27 に書き込むという操作を行うよりも、撮影によって得られた複数の画像データファイルをまとめて連続的に光ディスク記録媒体 27 に追記した方が、結果的にモータの総回転時間を減らすことができる。特に、連写撮影時においては、図 15 に示すように、RAM18 をバッファとして有効利用することにより、連写によって得られた複数枚の画像信号それぞれに対応する画像データファイルを RAM18 上に用意してから、光ディスク記録媒体 27 への書き込みをまとめて行うことにより、連写速度の性能向上、電力消費量の低減、録書き込み時間の減少を図ることが可能となる。

【0062】連写モード時の一連の処理手順を図 16 に示す。連写モード時には、シャッターボタンが押されている間、撮影動作、信号処理動作が繰り返し実行される（ステップ S181、S182）。そして、連写した枚数全ての撮像画像は RAM18 に順次取り込まれ、データ圧縮によって静止画データに変換する処理が RAM18 上で行われる。全ての圧縮された静止画データが RAM18 上に用意されたとき、好ましくはその少し前のタイミングで記録媒体ドライブ 26 のモータを回転させ（ステップ S184）、RAM18 上に用意された全ての静止画データを連続的にまとめて光ディスク記録媒体 27 に追記する（ステップ S185）。このとき、記憶部 104 上のファイル管理情報の更新も行われる。書き込みが完了した時点で、記録媒体ドライブ 26 のモータ回転を停止する（ステップ S186）。

【0063】以上の制御により、連写によって得られた複数枚の画像を、それら複数枚の画像データからなる一連のストリームデータの如く、連続して書き込むことが

可能となる。なお、連写によって得られた複数枚の画像データそれぞれは基本的には個々に画像ファイルとして記録されることになるが、複数枚の画像データを1ファイルとして記録するようにしても良い。

【0064】(再生モード)次に、光ディスク記録媒体27から画像データファイルを読み出して表示再生する再生モード時における動作制御について説明する。

【0065】再生モードにおける電力消費を低減するため、このデジタルスチルカメラでは以下の制御が行われる。

【0066】(1)光ディスク記録媒体27から画像データファイルを読み出して再生を行うとき、ある所定の設定時間内にデジタルスチルカメラに対してユーザからの再生要求が無かった場合、記録媒体ドライブ26のモータ回転を停止する。

【0067】この制御は、記録媒体ドライブ26内に設けられている上述の時計モジュール103をタイマとして使用することによって容易に実現することができる。すなわち、図1に示すように、タイマ103は光ディスク記録媒体27から最後に画像データまたはファイル管理情報を読み出した時間からカウントを開始し(カウントの開始は制御部30からの指示、またはドライブ制御部101からの内部的な指示に応じて行われる)、予め設定されている時間を越すと、制御部30に対して休止要求(記録媒体ドライブ26を低消費電力のスタンバイモードに移行する要求)を行う。スタンバイモードへの移行は、制御部30からのモード移行通知を待つて行う。もちろん、予め設定されている時間を越えたときに、記録媒体ドライブ26自体がモータの回転を止め、スタンバイモードに自動的に移行するようにしても良い。

【0068】図18は、再生モード時における制御部30の動作を示している。ユーザによるキー入力部21のキー操作によって再生モードが選択されると、信号処理IC17は、記録媒体ドライブ26のモータ回転を開始し(ステップS191)、例えば最後に書き込んだ画像データファイルを記録媒体ドライブ26を通じて光ディスク記録媒体27から読み出す(ステップS192)。次いで、信号処理IC17は、読み込んだ画像データファイルを伸張処理した後(ステップS193)、表示部23に表示する(ステップS194)。ユーザによるキー入力部21のキー操作によって例えば1つ前に書き込まれた画像などの別の画像の再生が要求されると(光ディスク記録媒体27に記録されている複数の画像のサムネイル表示要求も含む)、該当する次の画像データファイルの読み出し、伸張、表示処理が行われる(ステップS192、S193、S194)。

【0069】図19は、再生モード時における記録媒体ドライブ26の動作を示している。

【0070】記録媒体ドライブ26のドライブ制御部1

01は、信号処理IC17から読み出し要求を受信すると(ステップS201)、その読み出し要求に従って画像データファイルの読み出し動作を実行する(ステップS202)。画像データファイルの読み出しが完了すると、ドライブ制御部101からの指示(または信号処理IC17からの指示)により、タイマ103によるカウントが開始される(ステップS203)。ドライブ制御部101が信号処理IC17から次の画像データの読み出し要求を受信するまで、タイマ103によるカウント動作は続けられる。次の画像データの読み出し要求を受信すると、ドライブ制御部101は、タイマ103によるカウント動作を停止させ、タイマ値(経過時間)をリセットする(ステップS205)。

【0071】図20は、タイマ103によって所定時間の経過が検出された場合の動作を示している。タイマ103によって所定時間の経過が検出された場合(ステップS211)、ドライブ制御部101はタイマ103からの割り込みを受けて、信号処理IC17に休止要求を発行する(ステップS212)。そして信号処理IC17からの移行指示を待つて記録媒体ドライブ26のモータ回転を停止し、記録媒体ドライブ26をスタンバイモードに設定する(ステップS213、S214)。

【0072】ファイル管理情報の追記制御、電力制御、日時設定、複数の画像データファイルの連続記録、再生モードに分けて動作を説明したが、各動作は適宜組み合わせることで実現されるものである。

【0073】また、以上の制御は、例えば光ディスク記録媒体27を用いてオーディオデータの記録・再生を行う携帯オーディオプレイヤーや、光ディスク記録媒体27を用いて画像や音声等の記録・再生を行うための機能を持つ携帯電話、PHSなどにも適用可能である。また、光ディスク記録媒体27は通常のコンピュータでも読み取り可能な記憶媒体であることはもちろんである。

【0074】

【発明の効果】以上詳述したように、この発明によれば、小型且つ大容量で、しかも記録メディア単体で各種電子機器に装着して使用可能な光ディスク記録媒体の使用に好適な装置を実現できる。

【図面の簡単な説明】

【図1】この発明の一実施形態に係るデジタルスチルカメラを示すブロック図。

【図2】デジタルスチルカメラで使用される光ディスク記録媒体とそのドライブユニットを説明するための図。

【図3】ドライブユニットの構成を示す図。

【図4】ファイル管理情報の追記制御を説明するための図。

【図5】ファイル管理情報の一例を示す図。

【図6】ファイル管理情報の追記制御処理を示す第1のプロチャート。

【図7】ファイル管理情報の追記制御処理を示す第2の

フローチャート。

【図8】ファイル管理情報の追記制御の他の例を説明するための図。

【図9】撮像部に対する電力管理動作を示すフローチャート。

【図10】ストロボに対する電力管理動作を示すフローチャート。

【図11】電力管理を含む撮影処理時の一連の動作を示すフローチャート。

【図12】データ記録形式の一例を示す図。

【図13】時計モジュールの日時設定処理を示す第1のフローチャート。

【図14】時計モジュールの日時設定処理を示す第2のフローチャート。

【図15】連写撮影時のデータ記録動作を説明するための図。

【図16】連写撮影時の一例の動作を示すフローチャート。

【図17】再生モード時の電力管理を説明するための図。

【図18】カメラ制御部による再生処理動作を示すフローチャート。

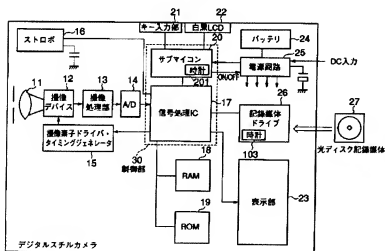
【図19】再生モード時におけるドライブユニットの動作を示す第1のフローチャート。

【図20】再生モード時におけるドライブユニットの動作を示す第2のフローチャート。

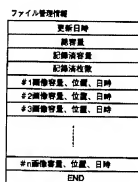
【符号の説明】

- 12…撮像デバイス
- 16…ストロボ
- 17…信号処理IC
- 20…サブマイコン
- 26…記録媒体ドライブ
- 27…光ディスク記録媒体
- 103、201…時計モジュール
- 104…記憶部

【図1】

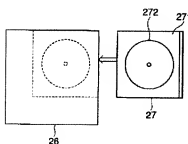


【図5】

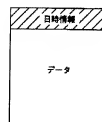
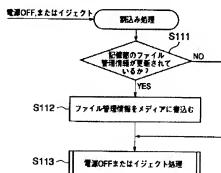


【図12】

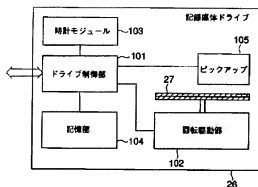
【図2】



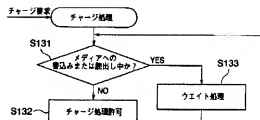
【図7】



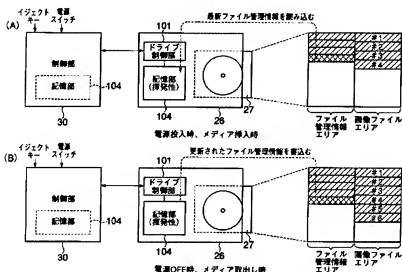
【図3】



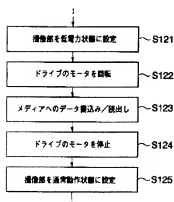
【図10】



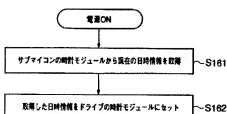
【図4】



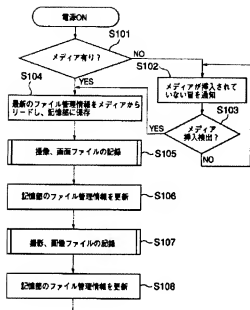
【図9】



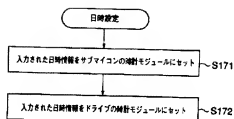
【図13】



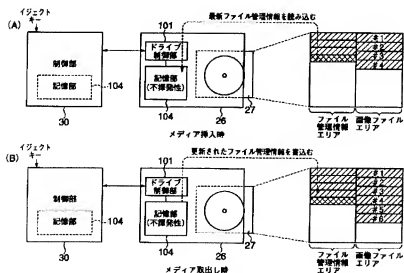
【圖 6】



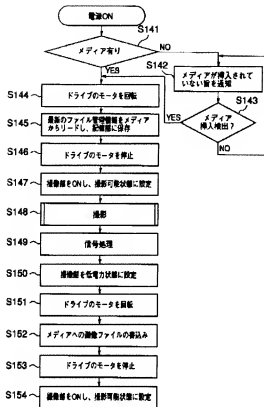
【圖 14】



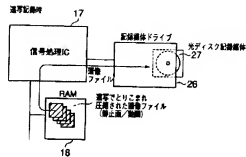
【圖8】



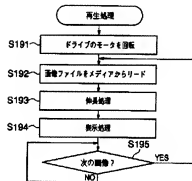
【図11】



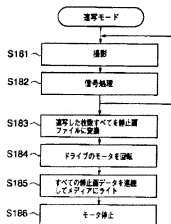
【図15】



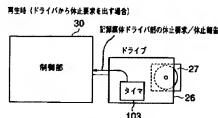
【図18】



【図16】

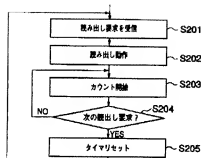


【図17】

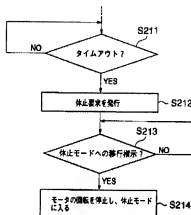


- ・ タイマは光ディスク記録媒体から映像にデータを読み出した時間から（映像部からの要求による）カウントを始め、あらかじめ設定してある映像を再生する映像等に到達した時に停止要求を行う（スタンバイモードへの移行動作）モード移行は映像部が行う
- ・ 負荷で止めた映像部へ報告

【図 19】



【図 20】



## フロントページの続き

(51) Int. Cl. 7

識別記号

G 1 1 B 27/00

H 0 4 N 5/225

5/85

5/91

// H 0 4 N 101:00

F I

G 1 1 B 27/00

H 0 4 N 5/225

5/85

101:00

5/91

テマコード (参考)

A 5 C 0 5 3

F 5 D 0 4 4

Z 5 D 1 1 0

J

(72) 発明者 酒井 澄夫

埼玉県深谷市幡羅町一丁目 9 番地 2 号 株

式会社東芝深谷映像工場内

(72) 発明者 池畑 達彦

埼玉県深谷市幡羅町一丁目 9 番地 2 号 株

式会社東芝深谷映像工場内

F ターム (参考) 2H053 AC21 BA04 CA41

2H054 AA01

2H103 BA44 ZA41 ZA51

5C022 AA13 AC03 AC12 AC31 AC41

AC54 AC69 AC73 AC80

5C052 AA02 AB08 CC11 DD02

5C053 FA08 FA23 GA11 JA21 KA01

KA24 KA25 LA01

5D044 BC05 CC06 DE03 DE12 DE17

DE23 DE39 DE49 DE59 DE69

DE70 EF05 FG18 GK08 GK12

HH17

5D110 AA16 BB07 DA04 DA17 DB09

DC03 DC13 DC28



⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報(A) 平2-33621

⑬ Int. Cl.<sup>3</sup>

識別記号

序内整理番号

⑭ 公開 平成2年(1990)2月2日

G 06 F 3/08  
G 11 B 26/12

F 6711-5B  
8524-5D

審査請求 未請求 請求項の数 6 (全6頁)

⑮ 発明の名称 記憶媒体管理システム

⑯ 特 願 昭63-184914

⑰ 出 願 昭63(1988)7月25日

⑱ 発 明 者 三 木 匡 大阪府門真市大字門真1006番地 松下電器産業株式会社内  
⑲ 発 明 者 小 塚 雅 之 大阪府門真市大字門真1006番地 松下電器産業株式会社内  
⑳ 出 願 人 松下電器産業株式会社 大阪府門真市大字門真1006番地  
㉑ 代 理 人 弁理士 栗 野 重 孝 外 1 名

明 細 書

1. 発明の名称

記憶媒体管理システム

2. 特許請求の範囲

(1)データと管理情報及びその更新履歴情報を同一の媒体に記録する記憶媒体と、前記記憶媒体に記録再生を行う記憶媒体制御部と、前記更新履歴情報を用いて管理情報を復元する変換ロード部と、復元された管理情報を格納する内部記憶装置と、復元された管理情報を用いてデータの記録再生を指示するデータ管理部と、復元された管理情報を処理する更新処理部を備え、前記更新処理部は前記記憶媒体の複数の物理セクタ内に記録された更新履歴情報を1つのセクタにバッキングして再記録する機構を有することを特徴とする記憶媒体管理システム。

(2)履歴情報を記録したセクタ又はバッキングして再記録したセクタの少なくとも1種のセクタの記録アドレスを、一定の連続したアドレス範囲に設定することを特徴とする特許請求の範囲第1項記

載の記憶媒体管理システム。

(3)データと管理情報及びその更新履歴情報を同一の媒体に記録する記憶媒体と、前記記憶媒体に記録再生を行う記憶媒体制御部と、前記更新履歴情報を用いて管理情報を復元する変換ロード部と、復元された管理情報を格納する内部記憶装置と、復元された管理情報を用いてデータの記録再生を指示するデータ管理部と、復元された管理情報を処理する更新処理部を備え、前記更新処理部は、一定の時点で前記内部記憶装置内に復元された管理情報を前記記憶媒体内にバックアップする機構を有し、前記変換ロード部はバックアップされた管理情報を起点とし、前記バックアップ以後の履歴情報から最新の管理情報を復元する機構を有することを特徴とする記憶媒体管理システム。

(4)更新処理部が、記憶媒体の複数の物理セクタ内に記録された更新履歴情報を1つのセクタにバックアップして再記録する機構をもつことを特徴とする特許請求の範囲第3項記載の記憶媒体管理システム。

## 特開平2-33621(2)

(5) 管理情報を記録したセクタ又はバックアップする管理情報を記録するセクタの少なくとも1組のセクタの記録アドレスを、一定の連続したアドレス範囲に設定することを特徴とする特許請求の範囲第3項記載の記憶媒体管理システム。

(6) 管理情報を記録したセクタ、バックアップして再記録したセクタ又はバックアップする管理情報を記録するセクタの少なくとも1組のセクタの記録アドレスを、一定の連続したアドレス範囲に設定することを特徴とする特許請求の範囲第4項記載の記憶媒体管理システム。

## 3、特許の詳細な説明

## 産業上の利用分野

本発明はコンピュータ外部記憶装置として利用される記憶媒体、特にシーク時間が問題となる記憶媒体のデータ管理システムに関する。

## 従来の技術

従来、外部記憶装置としてはフロッピーディスク等の容易な磁気記憶媒体が利用されてきたが、近年では高記憶光ディスク等のライトワンス

の媒体も利用され始めている。特にこういった可搬型の媒体では、その可搬性を生かすため、媒体内のデータの管理情報もデータと同時に記憶媒体内に記録しておく場合が多い。

こういった管理情報はデータの追加等の更新に伴い、頻繁に更新されるため、更新された管理情報全体をいちいち媒体に着き換えていたのでは、媒体の容量効率が悪化する。そこで、一般には次のような管理方式が用いられている。管理情報の更新は、その変更内容を表す更新履歴情報の形や、更新部分のみの差分情報の形で媒体内に記録しておき、媒体の交換時の初期設定時に、内部記憶装置（メモリ又はメモリとその補助記憶媒体）に読出し、更新履歴情報や差分情報の内容を確認して最新の管理情報を内部記憶装置内に復元する。

またライトワンスの媒体に限らず、頻繁な交換により媒体の劣化する可能性のある高記憶光ディスク等にもこういった管理方式が用いられる場合がある。以下に、このような更新履歴情報を用いた管理方式の例を紹介する。

## (1) 交代セクタ方式

磁気媒体の管理方式を高記憶記憶媒体に持ち込むことにより、オペレーティングシステムから高記憶記憶媒体を磁気媒体と同様に扱うことを可能にする互換方式として用いられる方式である。

例えば一例としては、MS-DOS（マイクロソフト社が開発したオペレーティングシステム/登録商標）等の汎用オペレーティングシステムに実装する例がある。MS-DOSでは磁気媒体をクラスタと呼ばれる固定物理サイズのブロックに分割し、FAT（File Allocation Table）により、クラスタごとに使用状況や他のクラスタ間のデータとの連続性を管理している。MS-DOSから磁気媒体への記録再生はこのクラスタに割り振られたクラスタ番号により指示される。交代セクタ方式では、このクラスタ番号ごとに光ディスク内の記録セクタとの対応を記録した変換表を管理情報として持ち、初期設定時にメモリ内に読み出して管理している。

MS-DOSからのクラスタ番号での再生指示

に対しては、この変換表を用いて、直前にデータが記録された光ディスク上のセクタを読み出し、既にデータが記録されたクラスタへの参照が指示された場合には光ディスク内に新しく交代用のセクタを割当てて記録し、メモリ内の変換表の該当クラスタ番号の変換先をこの新しいセクタへ書き換えるときにも、記憶媒体へはこの変換表の変更を示す履歴情報を記録している。

## (2) HSDF互換方式

再生専用光ディスクの管理方式としては、HSF（ハイ・シニラ・フォーマット：参考文献スタンダード・インターチェンジ 119、ポリウム・アンド・ストラクチャー・オブ・CD-ROM・フォー・インターチェンジ・インターチェンジ（Standard ECMA-119 Volume and File structure of CD-ROM for information interchange））がある。HSFは、5.25インチ再生専用型光ディスク（CD-ROM）の標準協定フォーマットであり、ディレクトリファイルを使ったディレクトリ構造の管理の他に、CD-ROMのシーク時間の

特開平2-33621(3)

書きを考慮してバスターブルと呼ばれるディレクトリの一括管理テーブルを導入している。

このHSFのファイルシステムとの互換性を追記型光ディスク上に実現する方法が互換方式として提案されている(参考文献:情報処理学会第36回全国大会、4S-8「CD-ROM(HSF)との互換性を汎用OS上で実現した追記型光ディスクの記憶管理方式1」、4S-7「CD-ROM(HSF)との互換性を汎用OS上で実現した追記型光ディスクの記憶管理方式2」)。この方式では、初期設定時に管理情報であるバスターブルをメモリ内に復元して管理するとともに、バスターブルの変更情報は履歴情報として、追記型記憶媒体内に記録する方式を取っている。

#### (3)検索情報による文書データの管理方式

追記型記憶媒体を用いた文書ファインディングシステムでは、文書データを光ディスク内に登録すると共に、この文書に付加するキーワード等の検索情報を光ディスク内に記録し、この検索情報を管理情報として文書を管理する方法が採用されてい

てない)ため、記憶媒体内のデータと管理情報に不整合が起こり、次の使用時にデータが読み出せない等、信頼性の問題が大きい。

従って、従来の方式では初期設定時には、このような履歴情報の記録された多数の物理セクタを全て読み出す必要があり、特にシークタイムの遅い光ディスクなどの媒体を使用する場合には、初期設定時の管理情報の復元処理時間に大きく影響を及ぼす原因となる。

しかし通常履歴情報は追記型記憶媒体の物理セクタサイズに比べて、かなり小さいことが多い。例えば交代セクタ方式では、1つの交代セクタの変更当たり10バイトもあれば、十分である。ところが、追記型光ディスクでは、最小の記録再生単位である物理セクタサイズが512バイトや1KBと履歴情報に比べてはるかに大きい場合が多い。このため、1つの物理セクタ内に数十〜数百の履歴情報をバッキングして記録すれば、初期設定時の管理情報復元の場合の履歴情報の読み出しに必要なオーバーヘッドを軽減し、復元処理速度を

る。

この方式では、初期設定時に検索情報を媒体内の文書データの管理情報としてメモリ内に読み出し、文書データの管理を行っている。初期設定以後の検索情報の変更や削除等の情報は、検索情報の変更内容を示す履歴情報として記憶媒体内に記録している。

#### 発明が解決しようとする課題

履歴情報や差分情報は管理情報の更新の度に記録される上、バラバラなタイミングで記録される。このため、物理セクタ単位での記録に拘束される記憶媒体、特に書き換えできない追記型記憶媒体では、履歴情報が記録された多数の物理セクタ媒体内に存在することになる。

この存在を抑える方法としては、内部記憶媒体に数回分の履歴情報を記録しておき、記憶媒体の交換時にまとめて記録する方法も提案されている。しかしこの方式では、不慮のシステムダウンの場合などに内部記憶媒体内の最新の管理情報やその履歴情報が記憶媒体内に反映されない(記録され

大幅に改善することが可能である。

本発明は上記オーバーヘッドの軽減、復元処理速度の大幅な改善が可能な記憶媒体管理システムを提供することを目的とする。

#### 課題を解決するための手段

本発明では上記課題を解決するために、データと管理情報及びその更新履歴情報を同一の媒体に記録する記憶媒体と、この記憶媒体に記録再生を行う記憶媒体制御部と、前記更新履歴情報を用いて管理情報を復元する復元ロード部と、復元された管理情報を格納する内部記憶装置と、復元された管理情報を用いてデータの記録再生を指示するデータ管理部と、復元された管理情報を格納する更新処理部を備え、前記更新処理部は前記記憶媒体の複数の物理セクタ内に記録された更新履歴情報を1つのセクタにバッキングして再記録する構成を有している。

また、上記の更新処理部及び復元ロード部を、一定の時点で内部記憶装置内に復元された管理情報を記憶媒体内にバックアップする構成を持つ

## 特開平2-33621(4)

所処理部と、バックアップされた管理情報を起点としバックアップ以後の履歴情報から最新の管理情報を復元する機構をもつ変換ロード部とする構成もできる。

## 作用

本発明では、更新処理部により複数のセクタに記録された履歴情報を1つの物理セクタにパッキングして記録する。または一定の時点で管理情報をバックアップすることにより、変換ロード部による管理情報再生時の履歴情報の読み出しに要するオーバーヘッドを軽減し、管理情報の復元処理の高速化を実現できる。

## 実施例1

第1図は本発明における実施例の基本構成を示し、第3図～第5図は同実施例の説明図である。

第1図において、10は記憶媒体管理部、1はデータ管理部、2は記憶媒体内のデータを管理する管理情報を格納する内部記憶装置であり、通常は内部メモリを使用するが管理情報が特に大きい場合には、スワップ用としてハードディスクなど

の補助記憶媒体が併用されることもある。3は記憶媒体内に記録された管理情報とその履歴情報を読み出し内部記憶装置2に復元する変換ロード部、4は複数のセクタに分散して記録された履歴情報をパッキングした形で記録する更新処理部、5は記憶媒体へ記録再生を行う記憶媒体制御手段、6は記憶媒体でその内部のデータ配置を示している。

第1図の本実施例は更新処理部4の履歴情報をまとめる場合の指示とデータの流れを示し、粗実線は初期設定時の変換ロード部3による管理情報の復元時のデータの流れを示している。

以下、本実施例では特にこういった管理方式を用いることによる効果が大い記憶媒体である遠型光ディスクを記憶媒体として例に挙げて説明する。

第3図は交代セクタ方式を行う場合の管理情報(以下、変換表と略記)の一例を示すものであり、第4図は1件ごと個別の履歴情報を記録した物理セクタ40の概略図を示している。

第3図の31はクラスタ番号、32は物理セクタ

タ番号であり、この変換表は初期設定時に内部記憶装置2内に復元ロードされている。クラスタ番号31はデータ管理部1が光ディスク6への記録指示を識別するための論理アドレスであり、光ディスク内での実際のアドレスである記録セクタ番号は物理セクタ番号32に記録されている。例えば、クラスタ番号13の内容は実際には物理セクタ番号01Fに記録されていることを示す。データ管理部1からの再生指示はこの変換表により、物理セクタ番号32に変換され、実際の記録位置がアクセスされる。また記録指示の場合は光ディスク内に新しい物理セクタを割当、変換表内の該当クラスタ番号がその新しい物理セクタ番号を指すように内部記憶装置2内の変換表を書き換える。また、変換表の割当内容を表す履歴情報を光ディスク6に記録する(例えば、履歴情報は第4図41の線になる)。

変換表自体は内部記憶装置2内に格納の状態で管理されているため、変更に必ずしも変換情報を記憶媒体6に記録する必要はなく、記憶媒体6

の交換時やシステムの電源を落とす場合等によっても記録することも可能であるが、システムの障害時や電源異常など不慮の場合には、内部記憶媒体2内の変換表が光ディスク内に反映されず、光ディスク内のデータと管理情報に食い違いが生じ、次回の使用時にこの記憶媒体が読み取れないなどの課題性の上で問題が多い。このため、一般的な方式ではこの問題を防止するために、変換表は内部記憶装置2内の変換表を更新すると同時に光ディスクにも履歴情報を記録する方式が採られている。しかし通常の光ディスクに対しては、物理セクタ単位での書き込みが行われるため、こういった履歴情報は個々の物理セクタにバラバラに記録されることになり、逆に以下の様な問題点が発生する。

履歴情報が多数の物理セクタにばらばらに記録されている場合には、初期設定時の変換表の復元時に読みださねばならないセクタ数が非常に多くなり、処理時間の悪化する原因となる。特に回転待ちが必要なためシーク時間が他の記憶媒体より

も高いとされる光ディスクなどの記憶媒体では、この多数のセクタ読み出しに要するオーバーヘッドは極めて大きなものとなる。履歴情報を記録されたセクタが連続的に記録されている場合には、履歴セクタの一括読み出しにより読み込み出しのオーバーヘッドを改善することは出来るが、この方法ではバッファリング用に大容量のメモリを必要とするため、メモリの制約により実現が困難である場合や効果が制限される場合が多い。

本実施例では、履歴の物理セクタに散在して記録された個別の履歴情報を1つの物理セクタにまとめて記録（以下、バック履歴情報セクタと略記）することにより、この初期設定時の処理速度の低下を防止する。

図5図の50にこのバック履歴情報セクタの例を示す。51は履歴の物理セクタに記録された履歴情報41をまとめたものであり、52は次の履歴情報の位置を記録した位置情報である（履歴情報やバック履歴情報セクタを連続したアドレスに記録する場合や、履歴情報の中に次の履歴情報へ

など若干のヘッダ情報が付加される場合もある。このソート変換後の変換後の変換の際には、このソート変換表を起点とした履歴情報が記録される。

この場合の初期設定時には、まずこのソート変換表を読みだし、次にバック履歴情報セクタを読み出し、最後にまだバックされていない個別の履歴情報を順次読み出し、内部記憶域内に管理表を生成する。

本実施例において、第2図のように記憶媒体制御手段5への指示を仮想的な論理アドレスとして送り、実際の記憶媒体内での記録位置へ変換するようなマッピングマップを利用すれば、バック履歴情報セクタ・個別の履歴情報を記録したセクタ・ソート変換表の記録位置をそれぞれ一定の記録アドレス範囲に設定した場合でも、記憶媒体上に予め設定領域全体を確保しておく必要がなくなり、使用状況に応じてマッピングを動的に変えて領域を光ディスク上にマッピングすることができ、そのため、領域管理が簡単となるし、記録領域の

のボイソクを持つような場合には、52のような情報は持つ必要がない。

また、個別の履歴情報やバック履歴情報セクタを記録する一定のアドレス範囲を設けて連続したセクタに記録すれば、更に読み出しのオーバーヘッドは改善できる。

このようなバック履歴情報セクタの例として、例えば本実施例の登録セクタ方式では、クラス番号及び物理セクタ番号にそれぞれ4バイトあれば十分であり、記憶媒体の物理セクタが512バイトの場合には、バック履歴情報セクタには、80個以上の履歴情報が記録できることになる。このため単純計算では、初期設定時のセクタ再生に要するオーバーヘッドが1/80以下に軽減できる。

また、このバック履歴情報セクタを用いる方法に加えて、一定時点で内部記憶装置2内に還元されている最新の要換表をそのままバックアップの形で記憶媒体内に記録（以下、ソート変換表と略記）する方法もある。この場合、要換表のサイズ

無駄がなくなる。記録アドレス範囲は使用状況により、どの程度必要とするかが不明であるが、この方法では大抵のアドレス範囲を設定しても、領域の無駄は無い（例えば、バック履歴情報セクタの記録アドレス範囲として、10000セクタ分のアドレスを設定した場合でも、光ディスク上には10000セクタ分を確保しておく必要はない）。

#### 実施例2

第8図にHSF交換方式に本発明を適用した場合の構成図を示す。第8図において、10は記憶媒体管理部、1はアーチ管理部、2は内部記憶装置であり、この中にはHSFとの互換性を実現するための管理情報であるバーステーブル（以下、PTと略記）21及びディレクトリファイルアドレス交換テーブル（以下、DTと略記）22が格納される。3はPT21及びDT22を光ディスク8内の履歴情報から読み出して再生する変換コード部、4は複数のセクタに分散して記録された履歴情報をまとめた形で記録する更新処理部、5は記

## 特開平2-33621(6)

記憶体へ記録再生を行う記憶媒体制御手段、8は追記型光ディスクとその内部のデータ配置、7は記憶媒体管理部10が扱う論理アドレスを光ディスク上の物理アドレスにページ単位に動的にマッピングするためのページングマップである。第8図中の破線矢印は、管理情報及びデータファイルの再生時のアクセス経路を示している（実態については、実施例1の第1図、第2図と同様）。

D T 2 2 はディレクトリファイル（以下、D F と略記）の更新を効率的に行うために導入されたテーブルである。これは次に説明するD F の更新時の関連点を回避する目的で導入されている（参考文献：日経エレクトロニクス「光ディスクの上位レベル・フォーマット、標準化への進展」、1989年7月25日号）。

H S F のディレクトリ構造ではD F 内にディレクトリD F やサブディレクトリD F の位置情報である論理ブロック番付を記録している。H S F のファイルシステム（第8図ではデータ管理部1の再生処理機能に相当する）では、このD F 内の

位置情報によりディレクトリ間の階層構造を掌握している。追記型光ディスク8では非換が出来ないため、ファイルの追加等の場合のD F の更新は、未使用の別のブロックに追記することにより行われる。このためD F のアドレスが変化することになる。ところが、H S F のD F では順ディレクトリD F やサブディレクトリD F は、この更新されたD F に対する位置情報として変更前のアドレスを記録しているため、このアドレスを付け替えるためにこれらのD F も逐次的に更新する必要が生じ、D F の更新がディレクトリ全体に波及するという問題が生ずる。そこでこれを解決する方法として、ディレクトリのアドレスとして仮想のアドレスを割り振り、ディレクトリ間の参照関係、この仮想のD F アドレスにより構成する。実際にD F が記録された実アドレスとの対応はD T に記録する。この方法を用いれば、D F の更新が起きた場合でも、仮想のD F アドレスは変化しないため、D T 2 2 内のアドレスを更新したD F を記録したアドレスを指すように替換するだけですむ

ため、先の様な問題が発生せずD F の更新を効率的に実施できるのである。

ファイルの追加やディレクトリの作成等の場合の、管理情報であるP T やD T の更新は内部記憶装置2内のD T 2 2 及びP T 2 1を更新すると共に、光ディスク8内には履歴情報を記録する。初期設定時には、復読ロード部3により、この両テーブルの履歴情報を記録した多数のセクタを放出して、D T 2 2 及びP T 2 1を更新する必要があるため、実施例1の交差セクタ方式の場合と同様に大きなオーバーヘッドとなる。

本実施例では更新処理部により、個別のブロックに記録されたこの両テーブルの履歴情報をバックアップしてまとめて1つのセクタに記録することにより、初期設定時の両テーブルの復元処理を高速化している（履歴情報の中にどちらのテーブルの履歴情報を識別するフラグがあれば、履歴情報を載せることが可能で、本実施例の場合の様に、P T の履歴情報の様に比較的小さいサイズの履歴情報とD T の履歴情報の様に比較的小さい

履歴情報を同一セクタ内に効率よくバックアップすることが可能である）。また、規定量の履歴情報が作成された時点で特にデータ管理部から指示を受けた時点で、内部記憶装置2内のP T 2 1及びD T 2 2をバックアップする形で光ディスク8に記録する（実施例1でのソート処理に対応）ことにより、この処理をさらに高速化することが可能である。

## 発明の効果

本発明により、管理情報とその履歴情報を記録する記憶媒体の管理システムにおいて、初期設定時の管理情報復元処理の高速化が実現でき、こういった管理システムが使用される文書ファイルシステムや計算機の内部記憶装置の利用上の効果が期待できる。

## 4、図面の簡単な説明

第1図は交代セクタ方式に用いた場合の本発明における1実施例の構成図、第2図は同実施例の変形例を示す構成図、第3図～第5図は同実施例の説明図、第6図はH S F 互換方式に用いた場合

特開平2-33621(ア)

の本発明の実施例の構成図である。

10・・・記憶媒体管理部、1・・・データ管理  
部、2・・・内部記憶装置、3・・・変換ロー  
ド部、4・・・更新管理部、5・・・記憶媒体制  
御手段、8・・・記憶媒体、7・・・ページマ  
ップ、30・・・変換部、31・・・クセタ  
番号、32・・・物理セクタ番号、41・・・組  
成情報、42・・・履歴情報、43・・・次位置  
情報、21・・・バーステーブル、22・・・ディ  
レクタリファイルアドレス変換テーブル。

代理人の氏名 弁護士 栗野重孝 ほか1名

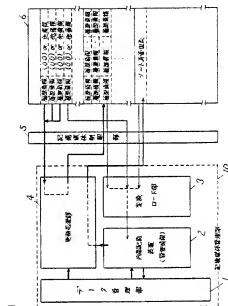


図 1

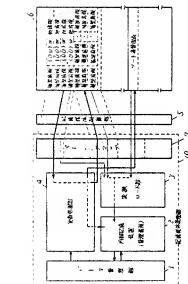


図 2

図 3

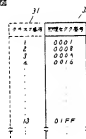


図 4

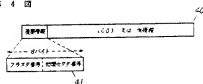


図 5

